

3 令和5年の詳細な自殺の状況

(1) 令和5年における手段別の自殺の状況

令和5年の手段別の自殺の状況をみると、「首つり」(14,104人)が最も多く、次いで「飛び降り」(2,710人)、「練炭等」(1,886人)となっている。男女別にみても同様に、「首つり」は男性が9,931人、女性が4,173人と最も多く、「飛び降り」、「練炭等」が続いた。

年齢階級別にみると、全ての階級で「首つり」が最も多く、その他の手段についてもおおむね同様の傾向であるが、「～19歳」では、「首つり」、「飛び降り」に次いで「飛び込み」、「70～79歳」及び「80歳～」では、「首つり」、「飛び降り」に次いで「入水」が多かった(図表1-13)。

図表1-13 令和5年の年齢階級及び手段別にみた自殺者数

(人)

年齢	総数		男性		女性	
	手段	自殺者数	手段	自殺者数	手段	自殺者数
全年齢	首つり	14,104	首つり	9,931	首つり	4,173
	飛び降り	2,710	飛び降り	1,569	飛び降り	1,141
	練炭等	1,886	練炭等	1,546	練炭等	340
～19歳	首つり	409	首つり	233	首つり	176
	飛び降り	263	飛び降り	138	飛び降り	125
	飛び込み	53	飛び込み	27	飛び込み	26
20～29歳	首つり	1,350	首つり	901	首つり	449
	飛び降り	417	練炭等	265	飛び降り	182
	練炭等	360	飛び降り	235	練炭等	95
30～39歳	首つり	1,473	首つり	1,087	首つり	386
	練炭等	424	練炭等	354	飛び降り	127
	飛び降り	354	飛び降り	227	練炭等	70
40～49歳	首つり	2,320	首つり	1,727	首つり	593
	練炭等	445	練炭等	385	飛び降り	147
	飛び降り	422	飛び降り	275	練炭等	60
50～59歳	首つり	2,781	首つり	2,009	首つり	772
	飛び降り	471	練炭等	333	飛び降り	217
	練炭等	398	飛び降り	254	練炭等	65
60～69歳	首つり	1,969	首つり	1,410	首つり	559
	飛び降り	273	飛び降り	147	飛び降り	126
	練炭等	136	練炭等	119	入水	49
70～79歳	首つり	2,020	首つり	1,410	首つり	610
	飛び降り	322	飛び降り	175	飛び降り	147
	入水	148	刃物	75	入水	92
80歳～	首つり	1,762	首つり	1,136	首つり	626
	飛び降り	186	飛び降り	117	飛び降り	69
	入水	106	入水	47	入水	59

※自殺の手段で多いものを上から3つ表示している。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(2) 令和5年における場所別の自殺の状況

令和5年の場所別の自殺の状況を見ると、「自宅」(13,414人)が最も多く、次いで「乗物」(1,485人)、「海(湖)・河川」(1,085人)となった。男女別にみても「自宅」が最も多く、男性は8,602人、女性は4,812人であっ

た。男性は「乗物」(1,245人)が2番目に多かったが、女性は「高層ビル」(479人)が2番目に多かった。年齢階級別にみると、全ての階級で「自宅」が最も多かった(図表1-14)。

図表1-14 令和5年の年齢階級及び場所別にみた自殺者数

(人)

年齢	総数		男性		女性	
	場所	自殺者数	場所	自殺者数	場所	自殺者数
全年齢	自宅	13,414	自宅	8,602	自宅	4,812
	乗物	1,485	乗物	1,245	高層ビル	479
	海(湖)・河川	1,085	海(湖)・河川	734	海(湖)・河川	351
～19歳	自宅	425	自宅	214	自宅	211
	高層ビル	124	高層ビル	60	高層ビル	64
	その他	53	その他	31	その他	22
20～29歳	自宅	1,391	自宅	808	自宅	583
	乗物	252	乗物	198	高層ビル	89
	高層ビル	180	高層ビル	91	乗物	54
30～39歳	自宅	1,403	自宅	946	自宅	457
	乗物	334	乗物	280	乗物	54
	高層ビル	156	高層ビル	103	高層ビル	53
40～49歳	自宅	2,067	自宅	1,406	自宅	661
	乗物	359	乗物	319	高層ビル	67
	高層ビル、 その他	179	その他	137	その他	42
50～59歳	自宅	2,627	自宅	1,741	自宅	886
	乗物	299	乗物	250	高層ビル	101
	高層ビル、 海(湖)・河川	188	その他	157	海(湖)・河川	54
60～69歳	自宅	1,863	自宅	1,214	自宅	649
	海(湖)・河川	153	乗物	116	海(湖)・河川	58
	乗物	134	海(湖)・河川	95	高層ビル	45
70～79歳	自宅	1,928	自宅	1,231	自宅	697
	海(湖)・河川	207	海(湖)・河川	118	海(湖)・河川	89
	その他	119	その他	88	高層ビル	46
80歳～	自宅	1,709	自宅	1,041	自宅	668
	福祉施設	182	福祉施設	103	福祉施設	79
	海(湖)・河川	120	海(湖)・河川	72	海(湖)・河川	48

※自殺の場所で多いものを上から3つ表示している。

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(3) 令和5年における同居人の有無別の自殺の状況

令和5年の自殺の状況を同居人の有無別にみると、「同居人あり」(13,801人)が「同居人なし」(7,889人)と比べて約1.7倍となった。男女別にみると、男性は「同居人あり」が8,884人、「同居人なし」が5,859人、

女性は「同居人あり」が4,917人、「同居人なし」が2,030人となり、女性の「同居人あり」の割合が男性に比べて高かった。年齢階級別にみると、「～19歳」は男女ともに「同居人あり」の割合が約9割となった(図表1-15)。

図表1-15 令和5年の年齢階級及び同居人の有無別に見た自殺者数

		(人)		
		同居人あり	同居人なし	不詳
総数	計	13,801	7,889	147
	～19歳	721	87	2
	20～29歳	1,549	962	10
	30～39歳	1,603	975	9
	40～49歳	2,327	1,269	29
	50～59歳	2,609	1,550	35
	60～69歳	1,640	1,140	18
	70～79歳	1,780	1,114	7
	80歳～	1,572	791	7
不詳	0	1	30	
男性	計	8,884	5,859	119
	～19歳	380	50	1
	20～29歳	968	624	7
	30～39歳	1,100	775	8
	40～49歳	1,591	1,047	27
	50～59歳	1,658	1,255	26
	60～69歳	1,021	894	16
	70～79歳	1,132	772	6
	80歳～	1,034	441	4
不詳	0	1	24	
女性	計	4,917	2,030	28
	～19歳	341	37	1
	20～29歳	581	338	3
	30～39歳	503	200	1
	40～49歳	736	222	2
	50～59歳	951	295	9
	60～69歳	619	246	2
	70～79歳	648	342	1
	80歳～	538	350	3
不詳	0	0	6	

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(4) 令和5年における「同居人あり」の場合の年齢階級及び同居人の詳細別の自殺の状況

令和5年の自殺の状況を同居人の詳細別にみると、「配偶者」、「母親」、「子（18歳以上）」及び「父親」との同居が多かった。年

齢階級別にみると、「～19歳」及び「20～29歳」は「母親」、「父親」、「兄弟姉妹」の順に同居が多く、「60～69歳」、「70～79歳」及び「80歳～」は「配偶者」、「子（18歳以上）」の順に同居が多かった（図表1-16）。

図表1-16 令和5年の「同居人あり」の場合の年齢階級及び同居人の詳細別にした自殺者数

		配偶者	子 (18歳未満)	子 (18歳以上)	父親	母親	兄弟姉妹	その他の親族	婚姻関係 にない パートナー	友人・知 人	施設等の 入居者	その他	不詳
総 数	計	6,843	1,833	3,195	3,061	4,238	2,040	1,468	525	93	255	216	15
	～19歳	1	1	0	524	633	464	111	6	4	12	14	0
	20～29歳	166	106	1	820	1,011	565	227	119	42	14	48	3
	30～39歳	580	467	27	608	730	270	124	118	13	15	28	0
	40～49歳	1,134	848	292	628	876	275	100	96	13	21	33	4
	50～59歳	1,513	385	752	421	753	248	119	102	5	18	24	4
	60～69歳	1,172	23	549	53	210	139	136	36	9	18	22	1
	70～79歳	1,370	3	720	7	25	60	231	37	7	50	23	1
	80歳～	907	0	854	0	0	19	420	11	0	107	24	2
男 性	計	4,550	1,247	1,909	2,089	2,896	1,344	900	306	69	157	139	10
	～19歳	1	1	0	276	333	248	70	1	3	4	7	0
	20～29歳	100	66	1	533	646	361	151	56	29	9	31	1
	30～39歳	393	300	15	450	533	190	88	68	10	13	21	0
	40～49歳	763	567	181	471	649	207	77	59	11	14	24	4
	50～59歳	923	288	437	313	561	180	65	64	3	13	18	4
	60～69歳	708	22	340	42	156	103	84	28	9	13	17	1
	70～79歳	922	3	434	4	18	44	144	20	4	31	13	0
	80歳～	740	0	501	0	0	11	221	10	0	60	8	0
女 性	計	2,293	586	1,286	972	1,342	696	568	219	24	98	77	5
	～19歳	0	0	0	248	300	216	41	5	1	8	7	0
	20～29歳	66	40	0	287	365	204	76	63	13	5	17	2
	30～39歳	187	167	12	158	197	80	36	50	3	2	7	0
	40～49歳	371	281	111	157	227	68	23	37	2	7	9	0
	50～59歳	590	97	315	108	192	68	54	38	2	5	6	0
	60～69歳	464	1	209	11	54	36	52	8	0	5	5	0
	70～79歳	448	0	286	3	7	16	87	17	3	19	10	1
	80歳～	167	0	353	0	0	8	199	1	0	47	16	2

資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

次に配偶関係別にみると、「配偶者あり」(8,042人)と「配偶者なし(未婚)」(8,007人)が多く、次いで「配偶者なし(離別)」(2,808人)、「配偶者なし(死別)」(1,742人)となった。年齢階級別にみると、男性は40

歳代以下、女性は30歳代以下では「配偶者なし(未婚)」が最も多く、それよりも上の年齢階級では、女性の「80歳～」を除き、それぞれ「配偶者あり」が最も多かった(図表1-17)。

図表1-17 令和5年の年齢階級及び配偶関係別にみた自殺者数

(人)

		配偶関係別					不詳	不詳
		配偶者あり	配偶者なし	未婚	死別	離別		
総数	計	8,042	13,550	8,007	1,742	2,808	993	245
	～19歳	1	808	793	0	1	14	1
	20～29歳	211	2,295	2,030	8	91	166	15
	30～39歳	701	1,867	1,430	12	302	123	19
	40～49歳	1,357	2,233	1,399	30	617	187	35
	50～59歳	1,780	2,369	1,278	107	775	209	45
	60～69歳	1,335	1,421	619	168	518	116	42
	70～79歳	1,555	1,307	376	463	364	104	39
	80歳～	1,102	1,248	82	954	140	72	20
	不詳	0	2	0	0	0	2	29
男性	計	5,437	9,237	5,824	774	1,940	699	188
	～19歳	1	429	421	0	1	7	1
	20～29歳	129	1,458	1,291	4	56	107	12
	30～39歳	485	1,383	1,085	10	200	88	15
	40～49歳	940	1,697	1,104	18	436	139	28
	50～59歳	1,118	1,790	1,029	52	545	164	31
	60～69歳	828	1,062	514	85	374	89	41
	70～79歳	1,053	829	324	199	236	70	28
	80歳～	883	587	56	406	92	33	9
	不詳	0	2	0	0	0	2	23
女性	計	2,605	4,313	2,183	968	868	294	57
	～19歳	0	379	372	0	0	7	0
	20～29歳	82	837	739	4	35	59	3
	30～39歳	216	484	345	2	102	35	4
	40～49歳	417	536	295	12	181	48	7
	50～59歳	662	579	249	55	230	45	14
	60～69歳	507	359	105	83	144	27	1
	70～79歳	502	478	52	264	128	34	11
	80歳～	219	661	26	548	48	39	11
	不詳	0	0	0	0	0	0	6

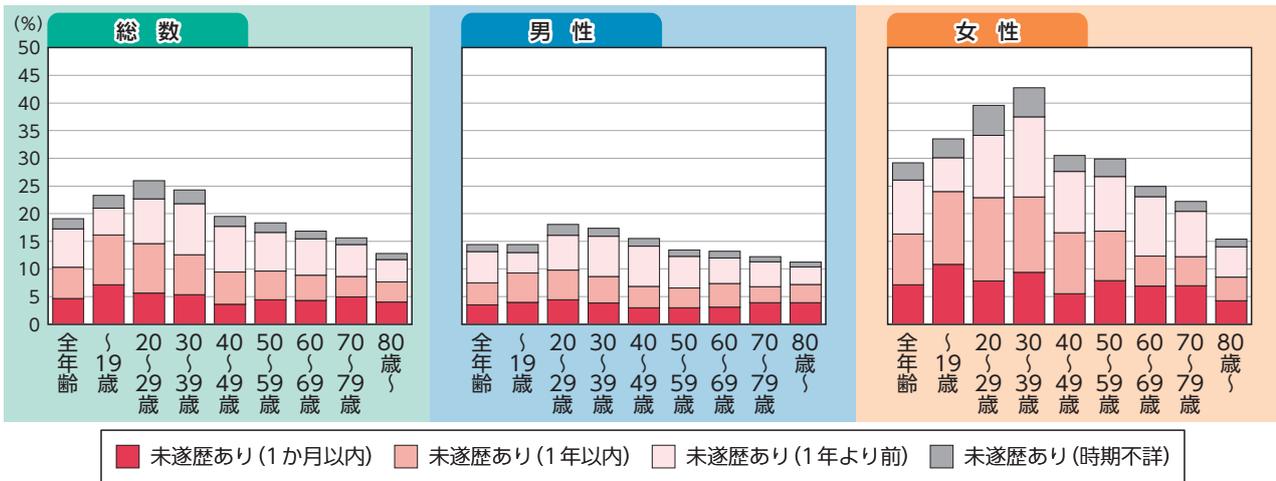
資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(5) 令和5年における自殺未遂歴、自傷行為歴の有無別の自殺の状況

令和5年の自殺の状況を自殺未遂歴の有無別にみると、自殺未遂歴があったのは全体の19.1%であった。男女別にみると、女性は29.2%であり、男性（14.4%）の約2倍であった。年齢階級別にみると、男性は20歳代から40歳代の階級で、女性は50歳代以下

の階級で、割合がそれぞれ全年齢の「未遂歴あり」の割合より大きく、特に女性の「30～39歳」は42.8%と最大であった。男性は最も割合が大きな「20～29歳」においても18.1%であり、男女で比較すると「未遂歴あり」の割合に大きな差があった（図表1-18）。

図表1-18 令和5年の「自殺未遂歴あり」の場合の年齢階級及び自殺未遂時期別にみた自殺者の構成割合

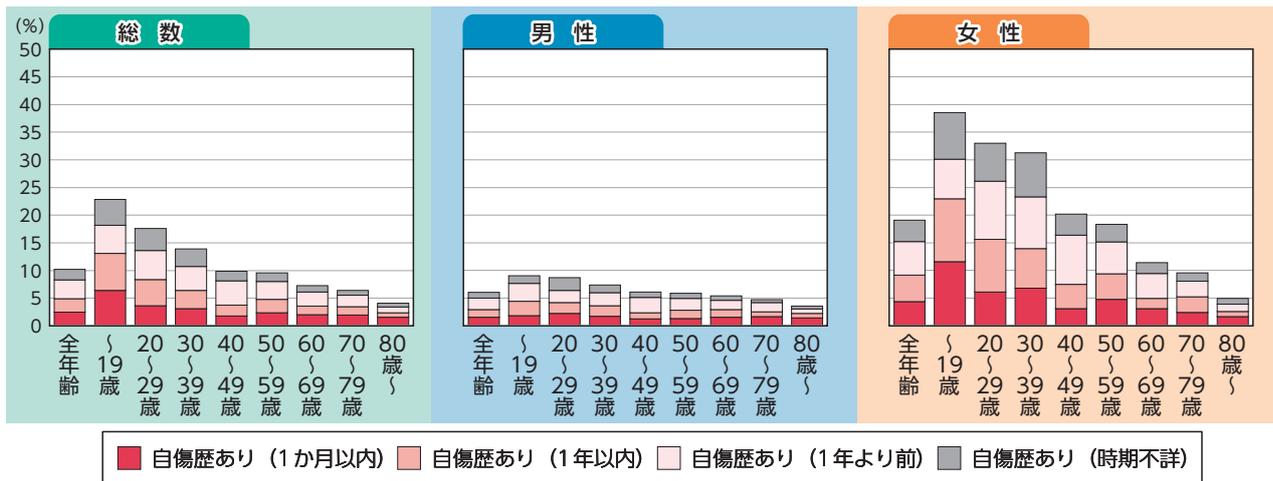


資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

自傷行為歴の有無別にみると、自傷行為歴があったのは全体の10.2%であった。男女別にみると、女性は19.1%であり、男性(6.0%)の約3倍であった。年齢階級別にみると、年齢階級が低いほど「自傷歴あり」の割合が大きくなる傾向にある。特に「～19

歳」の女性は、「自傷歴あり」が38.5%と大きな割合となった。男性は最も割合が大きな「～19歳」においても9.0%であり、自殺未遂歴と同様に男女で大きく異なる傾向となった(図表1-19)。

図表1-19 令和5年の「自傷行為歴あり」の場合の年齢階級及び自傷行為の時期別みた自殺者の構成割合

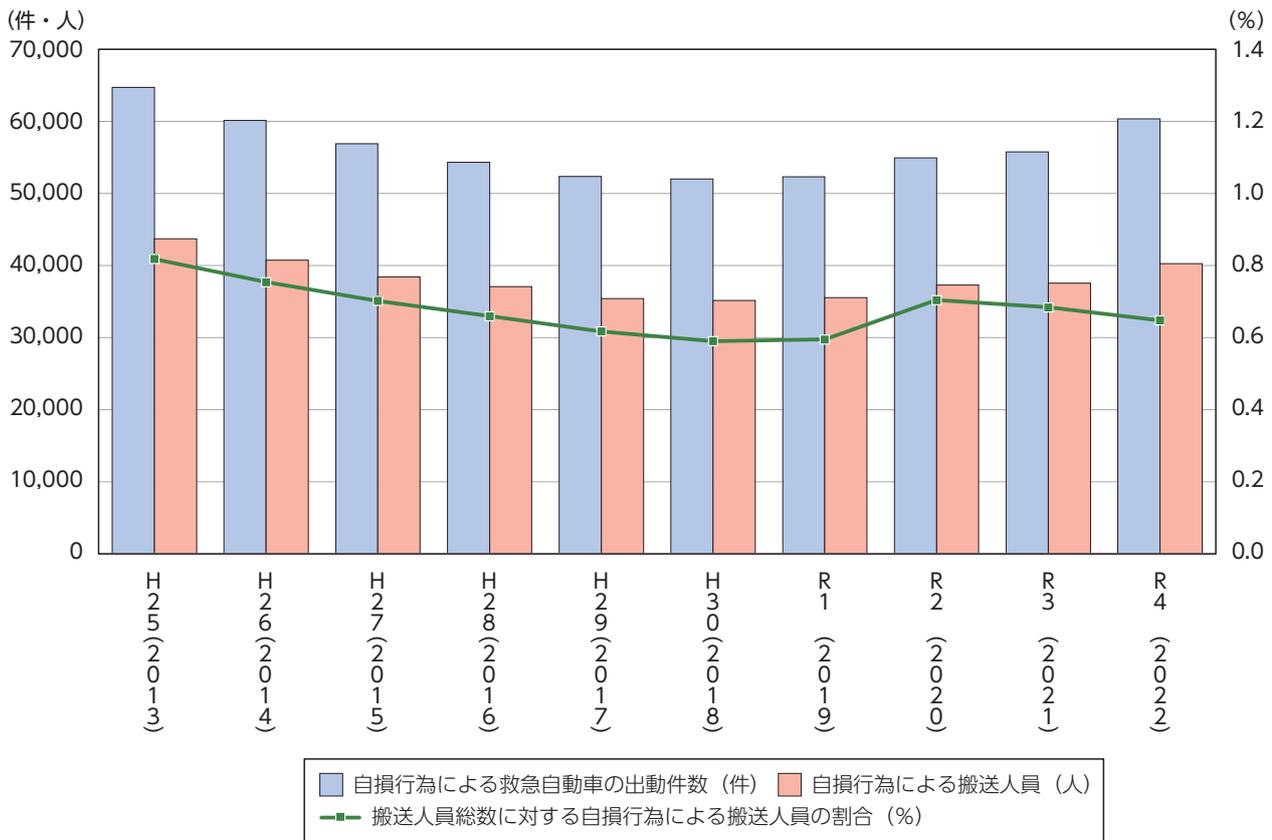


資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

また、参考として、消防庁の「救急・救助の現況」による令和4年までの自損行為による救急自動車の出動件数及び搬送人員の推移についてみると、自損行為による救急自動車の出動件数及び搬送人員ともに平成30年まで減少傾向であったが、令和元年にいずれも増加に転じた。その後4年連続で増加し、令和4年には、自損行為による救急自動車の出

動件数は60,327件、搬送人員は40,256人となった。また、搬送人員総数に対する自損行為による搬送人員の割合も平成30年まで低下傾向であったが、令和元年に上昇に転じた。令和2年に大きく上昇した後は再び低下し、令和4年は約0.6%であった（図表1-20）。

図表1-20 自損行為による救急自動車の出動件数及び搬送人員の推移



資料：消防庁「救急・救助の現況」より厚生労働省作成

(6) 令和5年における妊産婦の自殺の状況

令和5年の妊産婦の自殺の状況を見ると、女性の自殺者のうち、妊産婦は53人であった。年齢階級別にみると、「30～39歳」が27人と最も多く、次いで「～29歳」が16人、「40～

49歳」が10人であった。状況別にみると、「妊娠中」(15人)では「30～39歳」、「～29歳」がそれぞれ8人、7人であり、「産後1年以内」(38人)では「30～39歳」が19人で半数を占めた(図表1-21)。

図表1-21 令和5年の年齢階級別にみた妊産婦の自殺者数

		(人)					
		計	～29歳	30～39歳	40～49歳	50歳～	年齢不詳
女性		6,975	1,301	704	960	4,004	6
	該当なし	6,922	1,285	677	950	4,004	6
	妊娠中・産後1年以内	53	16	27	10	0	0
	妊娠中	15	7	8	0	0	0
	産後1年以内	38	9	19	10	0	0

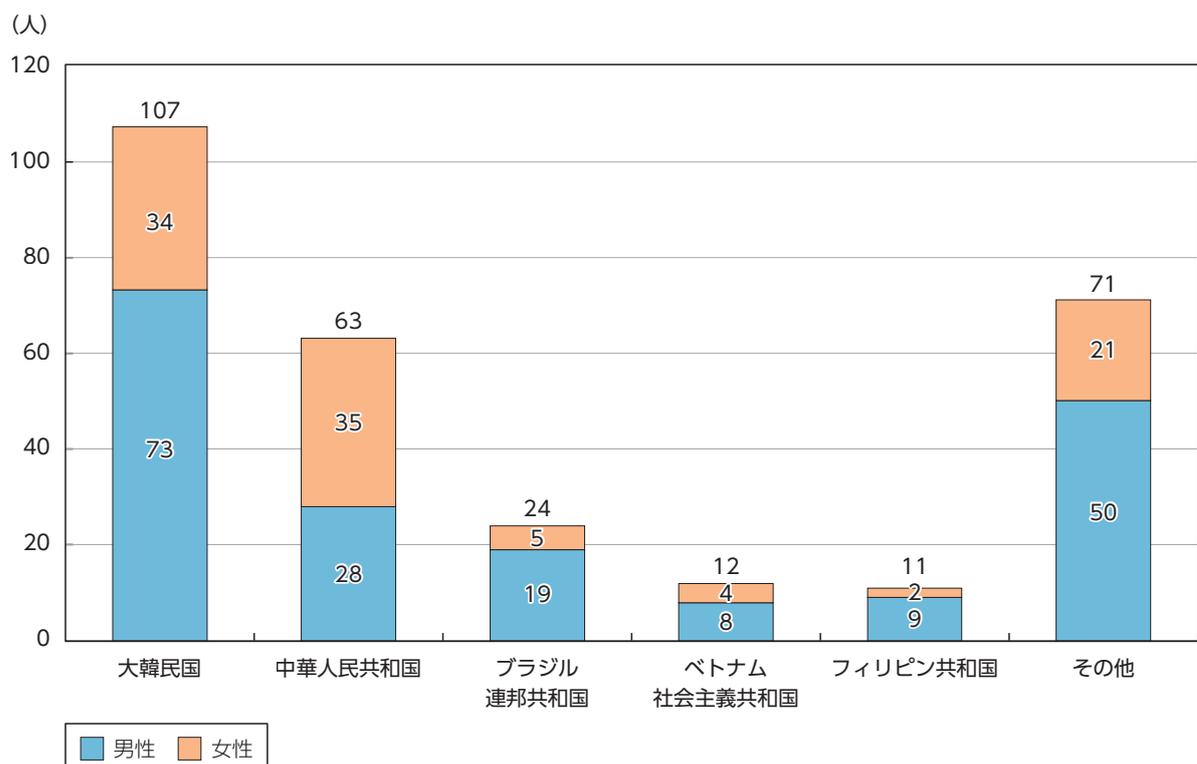
資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成

(7) 令和5年の国内における外国人自殺者の国籍別の自殺の状況

令和5年の国内における外国人の自殺者数は288人であった。国籍別にみると、「大韓

民国」が107人であり、次いで「中華人民共和国」(63人)、「ブラジル連邦共和国」(24人)が多かった(図表1-22)。

図表1-22 令和5年の国内における外国人自殺者数(国籍別)



資料：警察庁自殺統計原票データより厚生労働省作成